

# 西日本初！「ビザールプランツ展」の開催

堀川大輔

## はじめに

2022年（令和4年）6月22日（水）～7月10日（日）に「ビザールプランツ（珍奇植物）展」を開催した。ビザールプランツ※に特化した展示会は、埼玉県内で開催されたことはあるが、西日本では初めての開催であった。企画の経緯や展示の内容と関連イベントについて記す。（※ビザールプランツ（珍奇植物）とは根や茎が肥大したコーデックス（塊根植物）をはじめとする多肉植物やエアプランツなど「見た目や生き方が奇抜な植物」「希少で珍しい」植物群のことをいう。）

## テーマの選定について

本園では季節毎に様々な展示会を行っているが、展示内容のマンネリ化が問題となっている。マンネリ化を防ぐ方法として、展示物や解説の新規性、展示手法や場所の新規性の導入などが考えられる。それらを踏まえた上で広報にも重点的に力を入れることにより、来園者の増加および満足度向上を目指していた。そういった中で2021年は「アリと生きる植物展」を「世界の食虫植物展」と同時開催した（堀川ほか2022）。その流れで2022年においては、以前から当園でコレクション充実に取り組んでいたビカクシダをはじめとするビザールプランツにスポットを当てた展示会を企画した。そこで、ビザールプランツに関する著書が多く、様々なビザールプランツを生産・販売している SPECIES NURSERY の藤川史雄氏と、様々な珍しい種類のビカクシダを生産・販売している vandaka plants の高橋宏治氏に展示協力を打診したところ、快諾を得た。主な展示植物は、ビカクシダ、ブロメリア、チランジア、ケープバルブ（南アフリカの球根植物）、コーデックスを始めとする多肉植物、アリ植物とし、藤川氏と高橋氏の出品植物に加え、当園のコレクションを織り交ぜる方向で準備を進めた。

## チラシ・ポスターのデザイン・作成

前述の通り、広報にも注力すべく、チラシ・ポスターを作成することになった（図1、2）。デザインを始め担当者自ら考えた。

表面には、見たときのインパクトを考え、アメリカン・コミックス風のレイアウト・色合いにし、それぞれのコマの中に展示植物であるビカクシダやブロメリアなどのグループのうち特に目を引く種類を配置した。さらに全体的にポップな雰囲気になるよう、フォントや文字の大きさを工夫した。

裏面には、ビザールプランツの説明や講演会・実演会・講習会の告知のほか、ビザールプランツの販売の告知や開催期間中の他のイベントの案内も加えた。ビザールプランツはまだ認知度が低いため、より多くの人に興味・関心を持ってもらえるようイベントを毎週末行うなど展示関連イベントの充実に努めた。



図1 チラシ表面

**ビザールプラント (珍奇植物) とは**  
「Bizarre (奇妙・奇抜)」+「Plants (植物)」の意味で、根や茎が肥大化した植物「コーデックス (塊根植物)」をはじめとする多肉植物やエアプランツなど「見た目や生き方が奇抜な植物」「希少で珍しい植物」を指します。コロナ禍で増える「ぶら下り植物」も心豊かに過ごすため、いま、インテリアとしても楽しめるこれらの植物に注目が集まっています。  
本展示会では、そんな不思議で個性的な植物の奥深い世界をご紹介します。 ビカクシダ マダガスカルエッセ

**ビザールプラントを学んでみよう！**

**ビザールプラント講演会&ワークショップ**  
【日時】6月26日(日) 13:30~15:30  
【場所】展示資料館2階講堂  
①藤川史雄氏と高橋宏治氏による珍奇な植物対談  
【講師】SPECIES NURSERY (スピーシーズナーサリー) 藤川史雄氏  
vandaka plants (バンダカプランツ) 高橋宏治氏  
【参加費】無料  
【定員】先着100名  
②プロメリア、チランジアの養生ワークショップ  
(対談終了後)  
【講師】SPECIES NURSERY 藤川史雄氏  
ワークショップ材料費 1,000円~4,000円(先着30名)  
※選定済ま植物等により材料費は異なります  
※講演会の受付 (13時~)と同時に申込 詳しくはHPを

**講師紹介**  
藤川史雄 (ふじやま ひろお) 氏  
資生堂出身。園芸家、植物研究者。チランジアをはじめとするプロメリア科植物、多肉植物、球根植物等を扱う「SPECIES NURSERY」代表。個性的・魅力的な珍奇植物の普及、栽培の楽しさを伝えています。近著に「チランジアエアプランツ栽培図鑑」(エムシーエー)、「World Plants Report」(株式会社ファンタジーワールド)などがあります。  
高橋宏治 (たかはし ひろはる) 氏  
京都府上野区にシカクシダを育てる「vandaka plants」代表。ビカクシダ、養生プラン等の珍奇植物を主に取り扱う。特にビカクシダは、世界中から集めた品種から少量種まで、常時数千株を栽培・販売しています。

**ビザールプラント講習会**  
【内容】アリ植物の楽しみ方について  
【日時】7月3日(日) 11:00~12:00  
【講師】当園職員 【参加費】無料  
【場所】展示資料館2階講堂 【定員】先着100名

**ビザールプラント実演会**  
【内容】ビカクシダの仕立て方について  
【日時】7月10日(日) 14:00~15:30  
【講師】vandaka plants (バンダカプランツ) 高橋宏治氏 【参加費】無料  
【場所】展示資料館2階講堂 【定員】先着100名

**ビザールプラントを育ててみよう！**

**ビザールプラントの販売**  
・SPECIES NURSERY (スピーシーズナーサリー)  
・vandaka plants (バンダカプランツ)  
【日時】6月25日(土)、26日(日)  
【場所】展示温室前 講師 (6月26日講演会&ワークショップ終了後は展示資料館2階講堂にて販売)

**ほかにもイベントいろいろ！**  
広島市植物公園写生大会作品展 季節の園芸講座 (先着100名)  
【日時】6月18日(土)~7月18日(月・祝) 【日時】7月3日(日) 13:30~  
【場所】展示資料館1階 【場所】展示資料館2階講堂  
冬虫夏草観察会(申込制、抽選50名)  
【日時】7月10日(日) 10:00~13:00  
【場所】展示資料館2階講堂 6/29(水) ※詳しくはHPを

**予告 世界の食虫植物展**  
世界中の食虫植物たちが大集合！  
【日時】7月16日(土)~8月14日(日)  
【場所】展示温室  
食虫植物実演会  
【日時】6月7日(日) 13:30~  
【場所】展示資料館2階講堂  
【定員】先着100名

図2 チラシ裏面

**展示の様子**

展示温室南面には、藤川氏に出品協力いただいたプロメリアやチランジア、ケープバルブ25点と、当園保有のチランジアやコーデックスなどを11点展示した。また、ビザールプラントの歴史や、ジャンルごとのビザールプラントの紹介、ビザールプラントの生態などの解説パネルを15枚並べた。展示温室北側には高橋氏に出品協力いただいた21点のビカクシダと、大温室保有のビカクシダやアリ植物、原種ベゴニアをはじめとする熱帯雨林植物などを約60点展示した。以下に詳細を記す。

**<展示温室南面>**

入口付近にはビザールプラントの総論や歴史など、本展示の開催主旨の解説パネルを掲示した(写真1a)。次に展示協力者の紹介をし、それぞれのビザールプラントのグループごとの解説パネルを掲示した(写真1b)。



写真1 解説パネル

ビザールプラントの歴史では、江戸時代から「珍奇な植物」として親しまれてきた植物の代表としてマツバラ (Psilotum nudum) や変化朝顔を展示した。藤川氏に出品協力いただいたプロメリアやケープバルブは重量が軽く、特に盗難の危険性が高いことから展示ケース内での展示とした(写真2)。熱帯雨林植物については、南面は解説パネルのみ掲示し、植物は北面に展示した。



写真2 プロメリアの展示

コーデックスのグループは、大温室やサボテン温室で多く観賞できるため、本展示ではバオバブとパキポディウムをコーデックスの代表として展示した（写真3）。



写真3 コーデックスの展示

ケープバルブ、多肉植物のグループは、藤川氏の出品植物に加え、当園所有のブーフアンやペラルゴニウム、アガベを展示した（写真4、5）。中でもアエオニウムの休眠している姿は当園でもなかなか見ることができず、非常に貴重な姿だった。（写真6）



写真4 ケープバルブの展示



写真5 多肉植物の展示



写真6 アエオニウム・ドドラントレ (*Aeonium dodrantale*)

解説パネルの締めくくりとして、「生態に裏付けされた芸術性」と題して、ビザールプランツの珍奇な見た目の裏側に隠された生きるための知恵について、いくつか植物を取り上げて解説した。

#### <展示温室北面>

東側は、昨年度の「アリと生きる植物展」で協力してくださった伊藤彰洋氏が制作したジオラマ展示を参考にして装飾を行った。右側のコルクの柱には中南米に自生するアリ植物、左側のコルクの柱には東南アジアに自生するアリ植物を取り付けた。ジオラマ展示の周辺には、アリアカシア (*Vachellia collinsii*) やトコカ (*Tococa guianensis*) などのアリ植物、ヒカゲノカズラ (*Phlegmariurus*) や食虫植物、イワタバコの仲間を展示した（写真7）。



写真7 アリ植物（ジオラマ）や食虫植物などの展示

ジオラマ展示の隣にも、ヒドノフィツム (*Hydnophytum*) やミルメコディア (*Myrmecodia*)、ミルメフィツム (*Myrmephytum*)、レカノプテリス (*Lecanopteris*)、デスキディア (*Dischidia*) といった比較的メジャーな種類のアリ植物を展示した (写真8)。アリ植物内に作られたアリの巣を見せるため、植物体 (塊茎部分) を半分に切ったアリ植物も展示した。



写真8 アリ植物の展示

アリ植物の展示エリアの隣～展示温室出入口までは、高橋氏に出品協力いただいたビカクシダと、大温室保有のビカクシダや熱帯雨林植物 (ベゴニア、サトイモ科植物など) を展示した (写真9)。



写真9 ビカクシダや熱帯雨林植物の展示

展示植物の多くは、どこに注目して見ればよいか分かりにくいため、特に来園者に注目して見てほしい植物には「見どころワンポイント」として解説をつけた。また「アリと生きる植物展」と同様、花が咲いているものや実がついているもの、特に珍しい種類については「イチ押し!!」の札を付けた (写真10)。

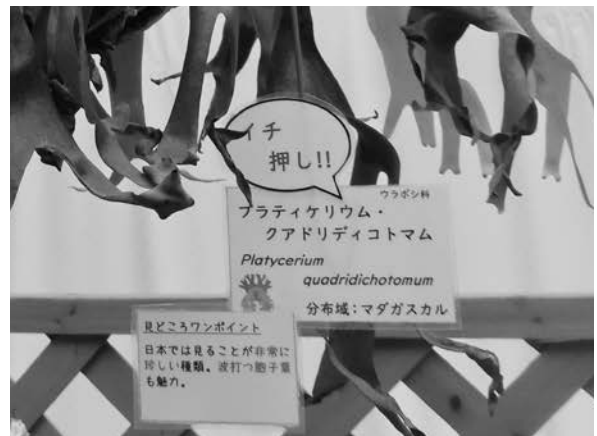


写真10 「イチ押し!!」「見どころワンポイント」表示

廊下では、ビカクシダやブロメリア、チランジア、ケープバルブを藤川氏と高橋氏が販売した (写真11a, b)。さらに高橋氏は様々な種類のビカクシダの胞子を購入することができる「胞子ガチャ」を設置した (写真11c)。1回1,000円 (500円玉2枚) と少し高価ではあったが、多くの来園者が購入していた。

#### ビザールプランツ講演会&ワークショップ

6月26日(日)に「藤川史雄氏と高橋宏治氏による珍奇な植物対談」という題目で両氏による対談を行った。定員100名の講堂はほぼ満員であった。「World Plants Report ex JAPAN」(藤

川・大賀 2021) 掲載の藤川氏がブラジルに行った際に撮影した写真を見ながら、プロメリアやチランジアなど様々な植物の自生地での様子や、ブラジルの町の様子などについて、笑いも交えながら両氏が語り合った。藤川氏と高橋氏の対談はもちろん、ブラジルの自生地の話も非常に貴重なもので、参加者も前のめりになって聴講していた。植物の話も大変興味深かったが、道中で出会った珍奇な虫、町の様子や現地の食事など、植物以外のエピソードも面白く非常に興味深いもので、現地に旅行したかのような体験をすることができた。そのためか、対談内容だけでなく、藤川氏や高橋氏自身に関する質疑応答も活発であった。



写真 11 臨時売店 a) ビカクシダ、b) プロメリア、チランジア、ケーパバルブ、c) ビカクシダの胞子ガチャやグッズ

対談終了後、藤川氏によるプロメリアやチランジアの板付けワークショップを先着 30 名で行った。植物と板付け用コルクは受付時に販売した。参加者は試行錯誤しながら楽しく、植物をコルク材に板付けしていた。

### ビザールプランツ講習会

7月3日(日)に、ビザールプランツの中でもアリ植物についてクローズアップした講習会を筆者が行った。内容としては「アリと生きる植物展」で掲示した解説パネルを元に、アリ植物の様々な生態や種類、アリ植物の栽培方法について紹介した。アリ植物を種子から栽培する方法を紹介したところ、非常に興味を持ってもらえたようで、事前に用意した提供用の種子はすべて配付することができた。

### ビザールプランツ実演会

7月10日(日)に高橋氏によるビカクシダの板付けについての実演会を開催した。ビカクシダを板付け材の大きさとのバランスや、テグスを用いてビカクシダを板付けする際のテクニックなど、丁寧な解説だった。参加者からは「お家にあるビカクシダを板付けしてみようかな」というような声が聞かれたほか、板付けの材料や高橋氏自身に関する質疑応答が活発だった。

### 所感

今回、アリ植物同様、まだまだ知名度の低い「ビザールプランツ(珍奇植物)」の展示を企画し、来園者の方々にどのくらい興味を持って見ていただけるか不安であった。しかし、展示監視員、職員等による植物の解説や、非常に内容の濃い講演会・実演会により、おもしろいと感じてもらえる来園者が数多く見られ、「また開催してほしい」との声も多く聞かれた。来園者の年齢層は「アリと生きる植物展」同様、若年層～中年層が多く、普段の来園者の年齢層とは異なっていたため、こうした新たな企画は、異なる客層の取り込みや満足度の向上につながる可能性があると感じた。一方で展示・解説の面では、「イチ押し!!」や「見どころワンポイント」を表示したものの、まだまだわかりにくいところもあったため、さらなる工夫が必要だと感じた。また、「アリと生きる植物展」ではマスコミ取材

がなかったのに対し、本展示ではテレビや新聞、ラジオでの取材があり、メディアの反応は非常に良かった。今後、より多くの来園者に見てもらうために広報の部分でSNSの積極的な活用に関して更なる改善の余地があると感じた。これらの改善点を踏まえて次回以降の展示会に活かしたいと思う。

最後に、展示協力していただいた SPECIES NURSERY の藤川史雄氏と vandaka plants の高橋宏治氏に深く感謝申し上げます。

#### **引用文献**

藤川史雄・大美賀隆．2021. World Plants Report ex JAPAN. 株式会社ファンタジーワールド．  
堀川大輔・藤井智展・濱谷修一．2022. 広島初！「ア  
リと生きる植物展」．広島市植物公園栽培記録  
43：37-41.